

⑥2 音部漁港水産生産基盤整備事業

受賞機関 岩手県 沿岸広域振興局 水産部 宮古水産振興センター

キーワード 掘込式漁港、高台移転後の被災跡地利用、水産業の生産性向上**全建賞審査委員会の評価ポイント**

東日本大震災で壊滅的被害を受けた漁港背後地を活用し、建築制限区域内に漁船の安全な係留を目的とした掘込式漁港を整備した。津波による被災を受けた集落跡に、漁業が安全に操業できる漁港を早期に整備し、地域の復興に貢献した取組が評価された。

1. はじめに

音部漁港は、岩手県沿岸中央部の宮古市の重茂半島に位置する県管理の第1種漁港である。音部漁港が立地する重茂半島は、本州最東端の地で三陸海岸の中でも最大の半島として三陸復興国立公園に指定されており、優れた自然環境を背景とした磯根資源に恵まれている。

コンブ・ワカメ等の養殖に早くから取り組み、サケのふ化放流やアワビの種苗生産・放流など、藻類養殖や定置網漁業を中心とした「つくり育てる漁業」を積極的に推進している。そのため、本県水産業の振興施策の重点地域としての役割を担っている。

2. 事業の概要

音部漁港では、東日本大震災以前は沖側への拡張整備を進めてきたが、震災の影響で、漁港施設やその背後にある集落も壊滅的な被害を受けた。その結果、浸水したエリアは、災害危険区域が設定され、住宅等は高台移転することになった。



漁港背後集落の被害状況

このため、地元漁協及び漁業者から、住宅等の建築が禁止されている区域を利用して、波浪の影響を受けずに漁船が安全に係留可能な掘込式漁港の整備要望が出されたことを受け、高台移転跡地の活用による漁港機能の向上を図るため、平成25年度から復興予算を活用した水

産生産基盤整備事業を導入し、整備を進め、令和5年3月に主要施設である物揚場・導流堤・船揚場等が完成した。



完成した掘込式漁港

3. 事業の成果

本地域は、ワカメ等の養殖漁業者や漁船が多いことから、係留施設や漁港施設用地が不足しており、非効率な漁業生産活動を余儀なくされていた。本事業による漁港整備において、係留施設及び漁港施設用地等が確保され、就労環境の改善が図られることで、水産物の安定供給や生産性の向上が期待できる。

本漁港は、外海に直接面しているため、静穏域が確保されず、漁船の転覆等の被害を受けていたが、地域の悲願である漁港内の安全性が向上し、安全で快適な漁業地域が形成され、地域の基幹産業である水産業の振興に大きく寄与している。

4. おわりに

本地域は、宮古市の中でも一次産業における水産業が占める割合が高く、集落におけるほとんどの世帯が漁業に従事しているため、地域水産業の振興が地域の復興に直接結びついている。生産性の向上や水産物の高付加価値化の更なる取組が推進され、漁家の所得向上による地域への経済波及効果が期待される。

今後とも、関係機関・団体等と連携を図りながら、水産物の安定供給等に資する漁港整備や近年の海洋環境の変化に伴う主要魚種の不漁など、水産資源の回復・増大に向けた漁場整備のほか、漁業地域の活性化に向けた海業振興などの取組を積極的に進めていく。

賛助会員 (一財) 漁港漁場漁村総合研究所、(株)三洋コンサルタント、(一財) 建設物価調査会、北日本港湾コンサルタント(株)、(株)土木技研